

長尾福祉会報

2019年4月1日

第39号



認定こども園長尾学舎落成式 (3月22日)

—長尾福祉会理念— 障害をもっているも なくても 男も女も
「生まれておめでとう・成長しておめでとう・長生きしておめでとう」といえる
社会づくりをめざします。

ごあいさつ

長尾福祉会では2018年に高松市に開園した「高松くりの木保育園」に続き、2019年度は「認定こども園長尾学舎」が開園し、地域の子育て拠点の整備を進めて参りました。法人理念である、生まれてから老後までの一生涯のサポート体制構築の準備が整い、これから内容の充実・強化ができるよう、役職員と共に励んでいく決意をしたところです。

今年度事業としては、築後20年を超える既存施設の老朽化による安全対策の再点検や更新を行い、災害への備えを強化します。また、総合社会福祉法人として種別にとらわれない広い視野を持った職員の育成を優先事項とし、質の向上のための教育や自己啓発支援、及び防災に対する教育等を重点的に実施しようと思っております。

中核的役割として、年間を通じ、情報を発信していけるよう、ホームページのリニューアル等を含め体制づくりを進めて参ります。

社会環境面では、消費税増税に伴う諸制度の改正への対応、なかでも幼児教育・保育の無償化による子どもを取り巻く環境、特に家庭の就労環境の変化に伴う子育てへの影響を注意深く見ていきたいと思っております。

当法人では法人をあげて地域福祉の課題解決に取り組んで参りますので、さらなるご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。

社会福祉法人長尾福祉会 理事長 森田 浩之

社会福祉法人は、「社会、地域における福祉の充実・発展」に寄与することを使命とし、社会福祉事業の安定的・継続的経営に努めるとともに、多様な生活課題や福祉需要に柔軟かつ主体的に取り組む公共的・公益的かつ信頼性の高い法人です。

ゆたか荘

人とのつながり

バス遠足

介護主任 木村 真吾

平成30年10月28日、ご家族を含む総勢41名で塩江町にあるホテルセカンドステージへバス遠足に行つて参りました。バス遠足は、「鯉のぼりを楽しむ会」納涼夏祭り」と並ぶ、ゆたか荘一大イベントとなつており、ご利用者には欠かせない恒例の行事となつていきます。

道中、バスの車内からは薄く色づき始めた山々の紅葉やコスモスの花を見ることができ、秋の色めきを感じることができました。

ホテルセカンドステージでは、1階食事会場にて天ぷら・刺身・ステーキ・鍋などボリュームのあるお膳が準備されており、目で見て・食べて・楽しめる内容でした。「食べきれない」と言われながらも、会場の窓から見える紅葉入り交じる爽快な山々の景色を楽しみながら、自然と会話にも花が咲き、気がつけばご家族よりもしっかりと召し上がられているご利用者の方もおられました。

食後には2階の会場に移動し、写真立ての作成を行いました。木枠部分に1センチ大のカラフルなクリスタルタイルをボードで貼付け、思い思いに飾りつけを行いました。完成した写真立ては、マグネットで写真を貼りつけられるように、カレンダーや時計も取り付けられており、ゆたか荘に持ち帰った今も、思い出とともに大切に保管し、生活の中で有効に活用されています。

ご利用者の方々がご家族の方と寄り添われることで、常より凛とした姿勢・表情となられていたのが印象的でした。昔を懐かしみながら思い出に身を任せ、また新たな思い出を作ることができるバス遠足となるよう、これからも計画して参りますのでよろしくお願い致します。



年忘れランチパーティー

介護職員 古川 亜紀子

2階オーブンスペースに飾られた、光り輝く大きなクリスマスツリーが年の瀬を感じさせる中、12月19日にゆたか荘忘年会として「年忘れランチパーティー」が開催されました。

メニューは唐揚げやスパゲッティ、ポテトサラダなどを華やかに盛り合わせたオードブル形式でしたが、美しい盛り付けに職員・ご利用者共に歓声が上がっており「早く食べたい」と待ち切れない様子も見られました。平成最後の年末という感慨深い思いの中、皆で元氣良く乾杯を行い、いよいよ忘年会がスタート！皆さん「これも美味しい」と喜ばれ、普段、食が細い方もこの日はたくさん召し上がり職員も驚くほどでした。数々の料理の中でも、スパゲッティは珍しい事もあり、特に喜ばれていたように思います。

また、今回は初めての試みとして、ベースト食などの方には「ハンバーグ・オムレツ・チラシ寿司」など見た目料理がわかる「ムース食」での提供を行いました。こちら、目で楽しむ味も良く普段よりも食が進んでおり喜んで頂けました。

例年、職員とご利用者で行っている催しですが、今年はお家族3組にも参加頂き、さらに楽しく和やかな雰囲気となりました。今後笑顔で喜ばれる行事作りをしていきたいと思っております。



地域交流餅つき大会

介護副主任 藤重 賢吾

ゆたか荘冬の一大イベントである地域交流餅つき大会を、今年12月26日に開催致しました。

近隣自治会や保育園・幼稚園・小学生など地域の方、ご家族等の多くの参加協力もあり、計画通りに進行することが出来ました。

お餅を搗いたことのない子ども達が、楽しそうに一先懸命に搗く姿をご利用者を含む地域の方で見守ったり、あんこを丸めたりと、いつもとは違った雰囲気を楽しまれていました。

ご利用者からは子ども達が餅つきをしているのを見ると元氣が出る」と笑顔で話をしてくれたり、「搗きだてのお餅は柔らかくて美味し」と言っていただけでも嬉しかったです。

今回は、初めて地域交流餅つき大会の計画・実施をさせていただきました。初めてのことでもあり、不慣れなところもありましたが、他の職員の協力もあり、何事もなく盛大に餅つき大会が行われ、戸惑いながらも計画して良かったと思えました。また、来荘された方々ともにご利用者の楽しめる姿や笑顔がみられたことが次の糧となりました。これからも、ゆたか荘では皆様に「楽しかった」「来て良かった」と感じてもらえるように努めていきたいと思っております。



開荘19周年 おめでとう ございます!

介護職員 瀧井 道明

温かな日差しに春の訪れを感じる3月1日、皆さまとゆたか荘の19周年のお祝いをしました。昼食は祝膳として、お赤飯・海老や野菜の天ぷら、小花麩のお吸い物、高野豆腐の炊き合わせ、フルーツの盛り合わせ等、目でも楽しめるような豪華なお膳を前に、「おこ馳走やなあ」「どれも美味しいわあ」と大変喜ばれておりました。

昼食後は、大正琴のグループである「幼芸会」様をお招きし、昔懐かしい名曲の数々を演奏していただきました。若いころを思い出して、歌を口ずさむ方、リズムに合わせて手拍子をされる方、一緒に楽器演奏する等、皆さまと賑やかで楽しいひと時を過ごすことができました。

私自身、開荘19周年のお祝い行事に携われ、ご利用者の皆様の楽しそうな笑顔を眺めていると、「ああ、この仕事を選んで良かったなあ」とやりがいを感じる事ができました。まだまだ2年程しか経っていませんが、仕事の難しさより、ご利用者との関わりを通して、楽しさややりがいの方が大きくなってきているのを実感しています。今後も、ご利用者の日々の生活が明るく、充実したものになりますよう、ご支援していききたいと思っております。



職員紹介

「食」を通して 皆さんを笑顔に



主任 管理栄養士 河井 以知理

長尾福祉会に就職し、この8月で10年が経ちます。ゆたか荘からのぞみ園へ異動し、昨年の1月に再びゆたか荘へ戻ってきました。

管理栄養士として働きはじめてから「美味しく食べられる」ということは「幸せ」と感じるようになってきました。それまでは美味しいものはいつでも食べられると思っていました。しかし、食べ物を噛むことが難しい人、飲み込むことが難しい人、食べるものが制限されている人など、多くの人と関わるうちに改めて美味しく食べる難しさを知りました。

美味しく食べてもらうだけでなく、安全に食事をしてもらう事も大切ですが、欲をいえば安全で食べることが楽しいと感じてもらいたいと思います。常にどうすれば笑顔になつてくれるのかと考え、悩むこともあり、そんな時は様々な職種の人と話し合い、「絶対にこうしなければいけない」というものではなく、多くの人の知識や想いが集まって食の楽しみにつながっていると思います。

例えば、ゆたか荘では月に3回喫茶があり、飲み物とお菓子を選んでいただいています。普段はゼリーやムーアス等をおやつに食べられているご利用者の中で、喫茶の時はケーキや和菓子を食べられる方がいます。「ケーキは大丈夫だが和菓子はどうだろう」、ケーキに付いている果物は細かく切れば安全じゃないかと等々、多くの職員と話し合います。喫茶の時、ケーキや和菓子を頬張り、笑みをこぼされる姿を見ると私も笑顔になります。安全は勿論のこと、美味しく笑顔になれる食の提供を努めてまいりますので、これからもどうぞよろしくお願い致します。



デイサービスセンター ゆたか

踊りの慰問



餅つき



初詣



平成の次の時代に向けて...

介護職員 三木 嘉昭

春夏秋冬、季節ごとにデイサービス内の雰囲気は移り変わりをみせており、お越しいただくご利用者の皆様の活気や表情からも四季を感じることが出来ます。

利用者の方にとってデイサービスに通うことは良い意味での緊張感を持って、「デイの日は早く起きなくては」、「今日着ていく服は何にしようか」等、メリハリある日常生活が送れることが家族から心身面へ好影響であることをお聞きします。

高齢化社会の現在、通所利用者の平均年齢も年々上がっており健康面へのニーズも多様化しています。一人ひとりが元気に日常生活が送れるには心身機能の維持、向上へのアプローチが重要です。体操等の身体機能と他者との交流等の精神機能面の活性化の場として、今までもこれからデイサービスでのサービス提供つくりに取り組んでいきたいと考えています。

菊



高松 くりの木 保育園



園長就任の
ごあいさつ

子どもの心に寄り添い
やすらぎのある場所に

園長 村尾 昌昭

桜のつぼみが花開き、やわらかな陽気に包まれる季節となりました。高松くりの木保育園は開園2年目を迎え、新入園児、進級した園児とともに、また新たな一歩を踏み出します。

今年度より、園長に就任いたしました。若輩者ではありますがゆえ、至らぬ点多いかと存じますが、一歩一歩、高松くりの木保育園とともに歩み、成長していけたらと思います。

また子どもたちの目線に立ち、心に寄り添い、心身ともにやすらげ場所の提供が出来ますように努めてまいります。どうか温かいご支援の程、宜しくお願い致します。

保育方針

- ・子どもが安全に過ごせるように環境を整備し、利用者が安心して預けられる保育園づくりに努めます。
- ・地域、利用者、保育園がつながりを持ち、お互いに協力して、信頼関係を紡いでいく。

保育目標

- ・心豊かでやさしい子ども
- ・違いを受け入れ、友だちと仲良くあそぶ子ども
- ・話をよく聞く子ども
- ・自分のことは自分でする子ども
- ・自分で考え、行動できる子ども
- ・自分の思いをことばや態度で表現できる子ども
- ・あいさつができる子ども

2年目の春

副主任保育士 山口あけみ

高松くりの木保育園がスタートして2年目の春がやってきました。去年の4月には何もなかった真つ白な保育園が、春の訪れとともに少しずつくりの木色に色づきはじめています。

法人関係者、地域の方、保護者の方々の御支援、ご協力のおかげで子ども達と様々な活動に参加することが出来ました。全園児を迎える入園式、保護者の方にも参加いただいた保育参加、子ども達が毎月楽しみにしている誕生会、5歳児の園外活動、皆で気持ち一つにして頑張った運動会、青空の下一緒に楽しんだ親子遠足、自分たちで作った衣装で仮装したハロウィンなど全てが初めての活動でしたが、子ども達の成長を感じ、一緒に楽しむことが出来た1年だったと思います。

まだまだ未熟な園ではありますが、これからも子ども達の心が豊かに育っていく保育を目指し、努力していきたいと思っております。今後ともご支援よろしくお願致します。



ショートステイセンター

余暇時間の充実を目指して

副主任 ユニットリーダー 八木 ひろみ
 ショートステイセンターには、「亀」「鶴」と名前がついた二つのユニットがあります。それぞれのユニットでは、おやつ前のゆったりとした時間を使ってレクリエーションを行っています。作品を作ったり、ボールやトランプを使って楽しんで、簡単な計算などの脳トレを行っています。

また、月に一度はユニット合同で行う合同レクがあります。職員と利用者様が一緒に作った紙芝居を披露したり、魚釣りゲームを楽しんだり、利用者様に楽しんでもらうように、レク委員が力を入れて日々思考錯誤しながら取り組んでいます。

特に利用者様に人気の高いレクリエーションは、音楽関係のものです。ギターの得意な職員と共に、利用者様も歌われ、普段はなかなか参加していただけない利用者様も、歌やギターの演奏会は喜んで参加して下さっています。ギターに合わせて童謡や昔懐かしい歌を歌い始めると、自然と手拍子も始まり、音楽レクは、いつも以上に楽しそうな表情が見られます。

先日、利用者様のお孫様が面会に来られた際、ミニコンサートが開催されました。生のバイオリンの演奏に皆さん感動され、綺麗なバイオリンの音色に聴き入っておられました。すべての演奏が終わると、大きな拍手を送り「また来てね」などと、笑顔で声をかけられていました。



このような交流も利用者様の楽しみの一つとなっています。次回も心待ちにしています。ありがとうございます。ございました。



ふわふわホットケーキ、甘い匂いが広がります。



バイオリンの音色にうっとり。穏やかな時間が流れました。



みんなで作った「日本亀鶴昔ばなし」温かいお話が出来上がりました。

心に寄り添った支援を

ケアプランセンター ゆたか

センター長 鎌倉 節子

ケアプランセンター ゆたか事業所は、高齢者複合施設ハーティヴィラ亀鶴の建物内に事務所があります。福祉系のケアマネ、医療系のケアマネが相談業務を行っています。

私たちは、利用者様、家族様にとってより良い選択ができるよう、皆様の心に寄り添った支援を心掛けています。小さなことでもお気軽にご連絡ください。

「クリスマスのおードブル
 『華やかで美味しそう！』と喜ばれました。
 『これから食べよう！』次はこれがいいなあ」といつもよりお箸が進みました。



FDL 健康で豊かな毎日食から

専門調理師 寺井 千弘

私達、FDL(フード・デザイン・ラボラトリー)は、ハーティヴィラ亀鶴の食事を作る部署です。管理栄養士を中心に、4人のスタッフが利用者様の健康を支えるお手伝いをしています。健康のためだけではなく、食事の時間を毎日の大きな楽しみとしたいだけ。よう、献立をはじめ、味や彩りなど様々な工夫を凝らしています。

七夕には涼しさを味わえるそうめん、開園記念日には握りずし、クリスマスには豪華なおードブル等々、季節や暦を感じていただけるよう行事のメニューにも力を入れています。

これからも、利用者様の生活が尚一層豊かになるような食事を提供していきます。どうぞよろしくお願いたします。

召し上がっていた方のお顔を思いながら、心を込めて作っています。



のぞみ園

クリスマス会

生活支援員 秋友 誠

平成30年12月20日、クリスマス会を行いました。ボランティアで四国学院大学の方による参加型の寸劇が行われました。また、各寮で練習してきた出し物やギター演奏が行われ、とても盛り上がりました。その後、金藤先生から頂いたシャンメリーと共にケーキをおいしく食べました。最後にサンタクロースが登場し、クリスマスプレゼントを受け取り、大変喜ばれていました。



餅つき

生活支援員 内原 宏子

12月24日、のぞみ園食堂にて毎年恒例の「もちつき」が行われました。
今年も地域からは、さぬき警察署、恵生ノ園、ゆめポケットの皆様、保護者の方々も参加してくださいました。ご利用者、地域の方々が「丸」となっており、「よいしょ、よいしょ。」のかけ声と共に元気よくつきました。管理栄養士のクイズや警察の方による手品の催し物やプレゼントもあり有意義な一日を過ごすことができました。



ひなまつり茶会

生活支援員 大風 誠司

3月3日、毎年恒例のひなまつり茶会が行われました。天気が悪く、足元の悪い中でしたが、たくさんの方にお越しいただきありがとうございました。

当日は、ご利用者の作品展示や、職員と一緒にドキドキの緊張の中、今まで練習してきたお空前を披露したり、お運びを頑張っていたご利用者。終わった後は、ほっとした様子でお茶とお菓子を頂いていました。



児童デイサービス

楽しいクリスマス会の集い

児童発達支援管理責任者 山田 邦浩

12月25日、のぞみ児童デイサービスでは恒例のクリスマス会を開催しました。

職員と子どもたちで考え準備し当日の午前中は、プログラム表を作ったり、クリスマス用の飾りつけを行いました。室内ではいくつものリースやきらきらモールと鉢植えの木も立派なクリスマスツリーに変身しサンタさんを迎える準備をしました。

おしケーキも生地作りががんばってくれたお友だちのおかげでデコレーションが楽しくみんまで行えました。

今年もクリエイト倶楽部の兵頭さん内海さん、安岐さんにお手伝いいただき、ピンゴやジャンケンゲームそしてサンタの登場などで大盛り上がり。みんなががんばって作ったケーキを食べ、キャンドルサービスもあり楽しい時間をすごしました。



おやつ作り交流

児童発達支援管理責任者 山田 邦浩

去年のカレー作りに引き続き、お隣のグループホームの方々と交流会を12月15日に行いました。今回は、おやつ作りをテーマに、ホットケーキミックスを使ったケーキ作りを行いました。

ホットケーキの要領で作った生地をホットプレートを使って蒸す簡単なものですが、大人も子どもも協力して作り上げました。

会食しながら改めて自己紹介をするなど、会話も弾み楽しい一時となりました。



児童デイサービスの特別支援について

児童発達支援管理責任者 山田 邦浩

のぞみ児童デイサービスでは、日常生活動作や運動機能等の訓練の必要なお子さんに対して、OT(作業療法士)による特別支援を行っています。また、それ以外の支援の場面についても、職員の疑問などに対して、直接アドバイスをもらうなどの専門職の立場からの意見を反映した取り組みを行なっています。



